

ゼロから始まった サービス・チーム・QA

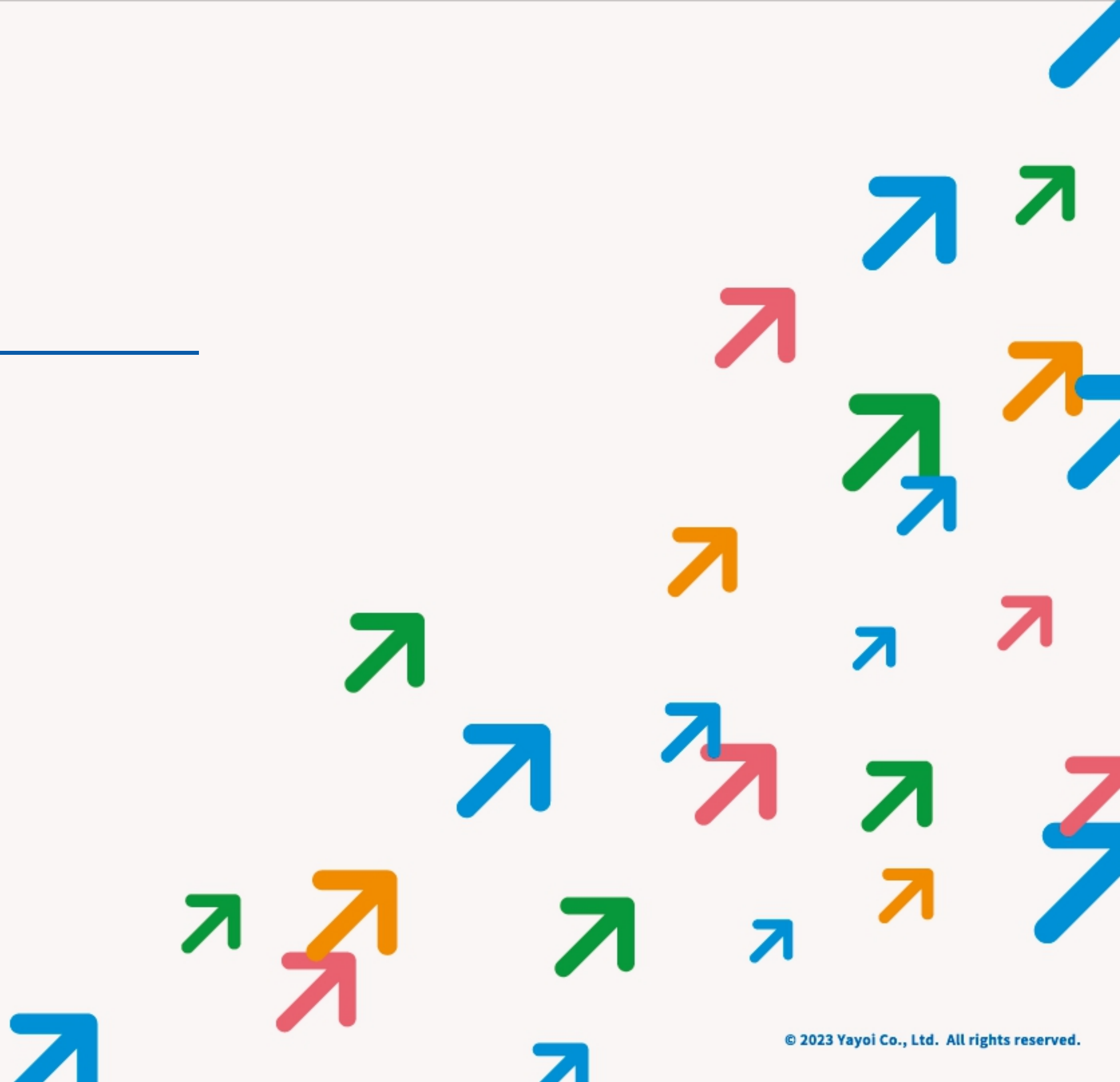
JaSST'23 2nd Tokai
2023年12月15日（金）

弥生株式会社 開発本部
ぞうぐみ



家登 あずさ
かとあず (@kato_az)

今日お話しするサービス



スマート証憑管理

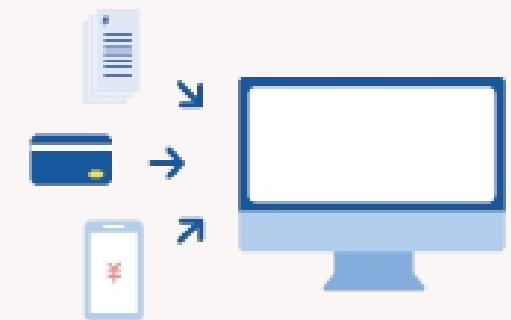
スマート証憑管理

取引の事実を証明する書類

スマート証憑管理

取引の事実を証明する書類

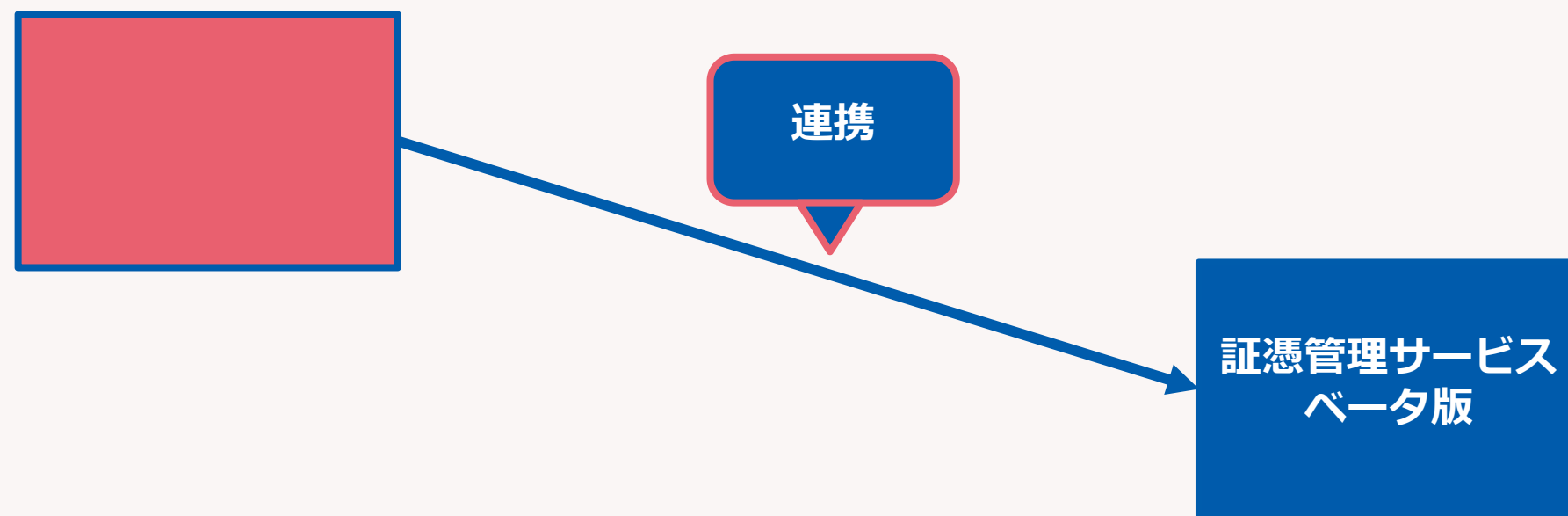
- 金銭のやり取りに関する証憑
 - 請求書、領収書、注文書、納品書、受領書、小切手帳、支払い証明書
- 物品に関する証憑
 - 納品書、受領書、棚卸表
- 雇用に関する証憑
 - 履歴書、雇用契約書、給与支払い明細書
- 契約に関する証憑
 - 賃貸借契約書、議事録、念書、覚書
- その他
 - 送り状



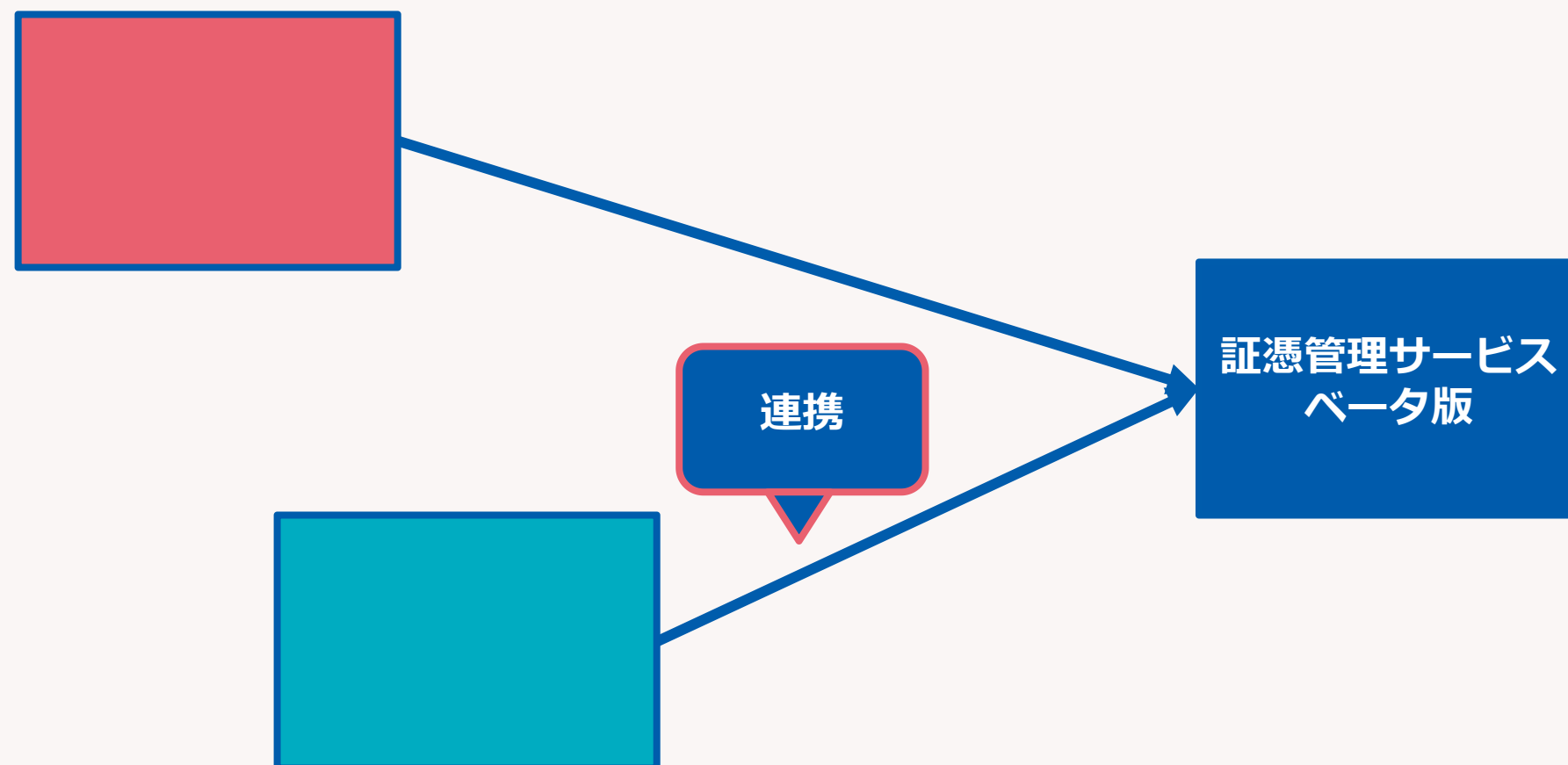
スマート証憑管理の変遷（2022年5月）

証憑管理サービス
ベータ版

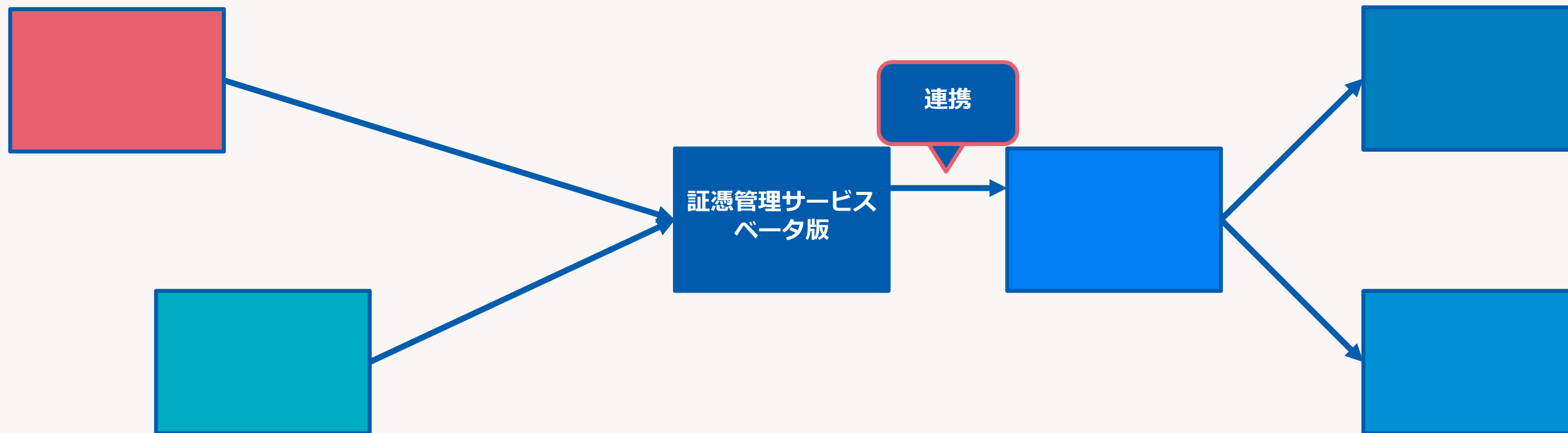
スマート証憑管理の変遷（2022年6月）



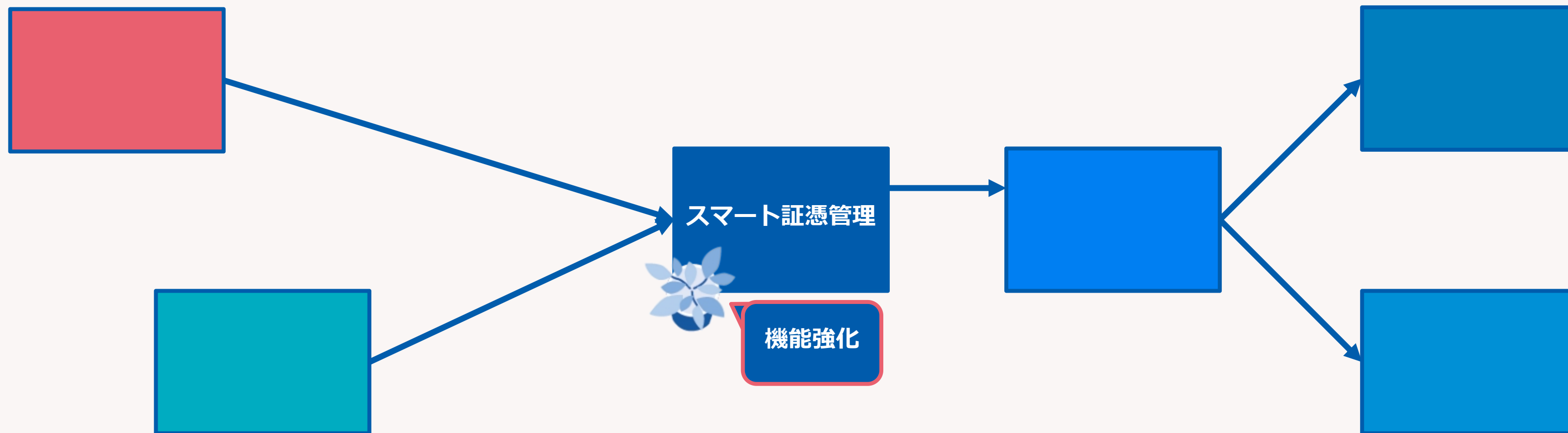
スマート証憑管理の変遷（2022年8月）



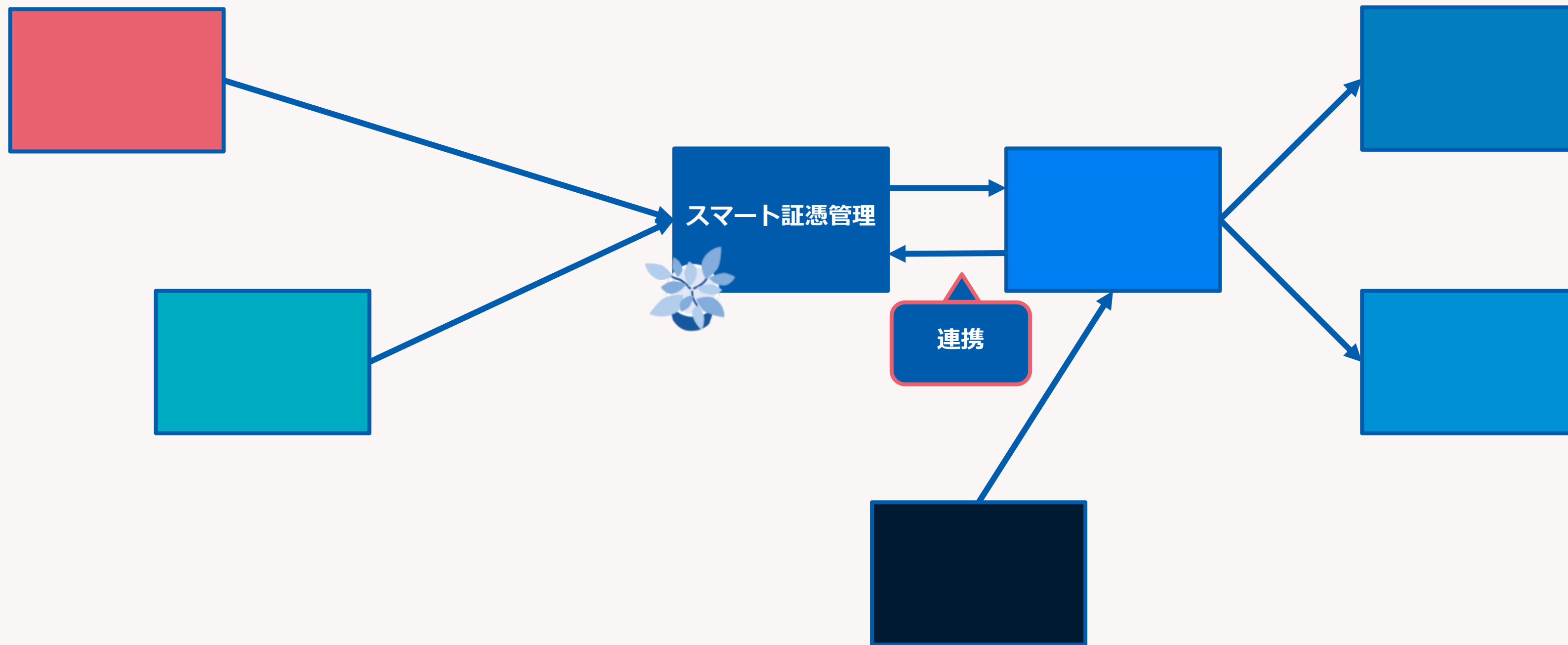
スマート証憑管理の変遷（2022年12月）



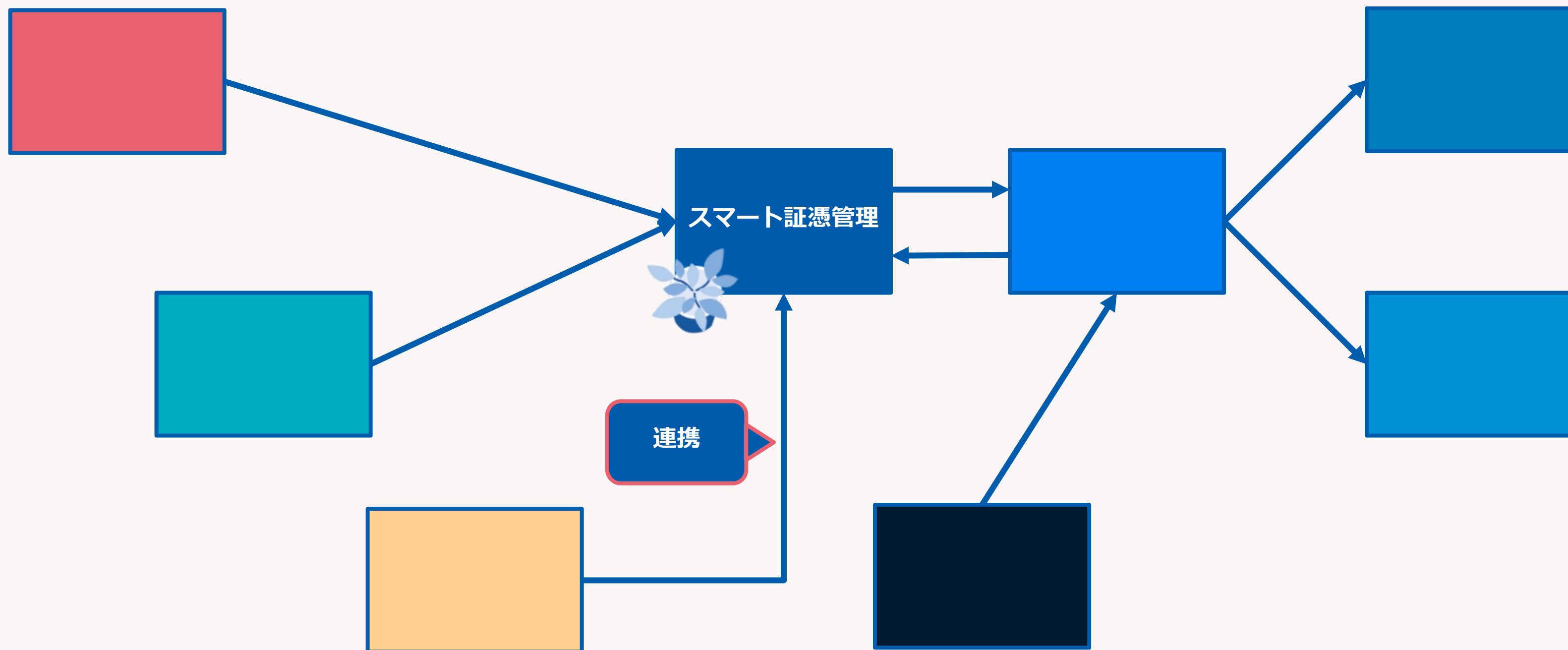
スマート証憑管理の変遷 (2023年1月)



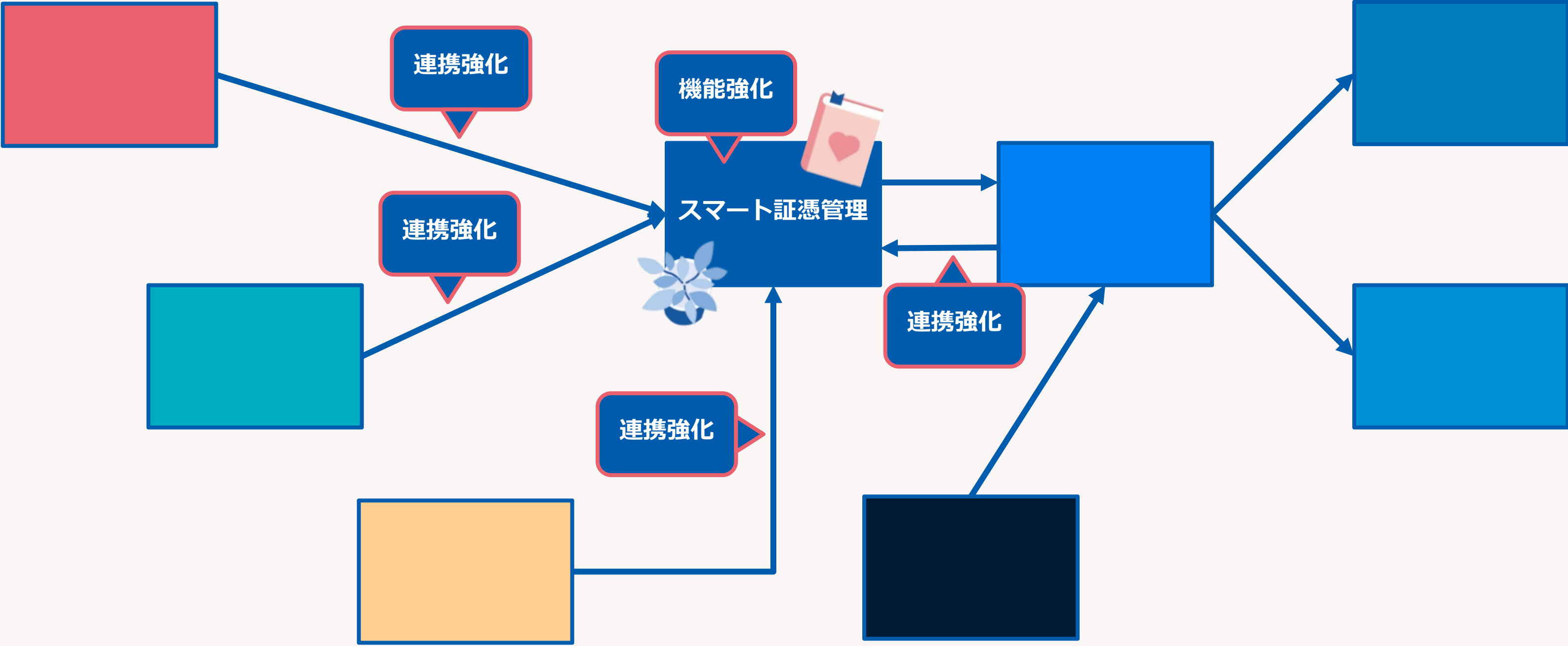
スマート証憑管理の変遷 (2023年6月)



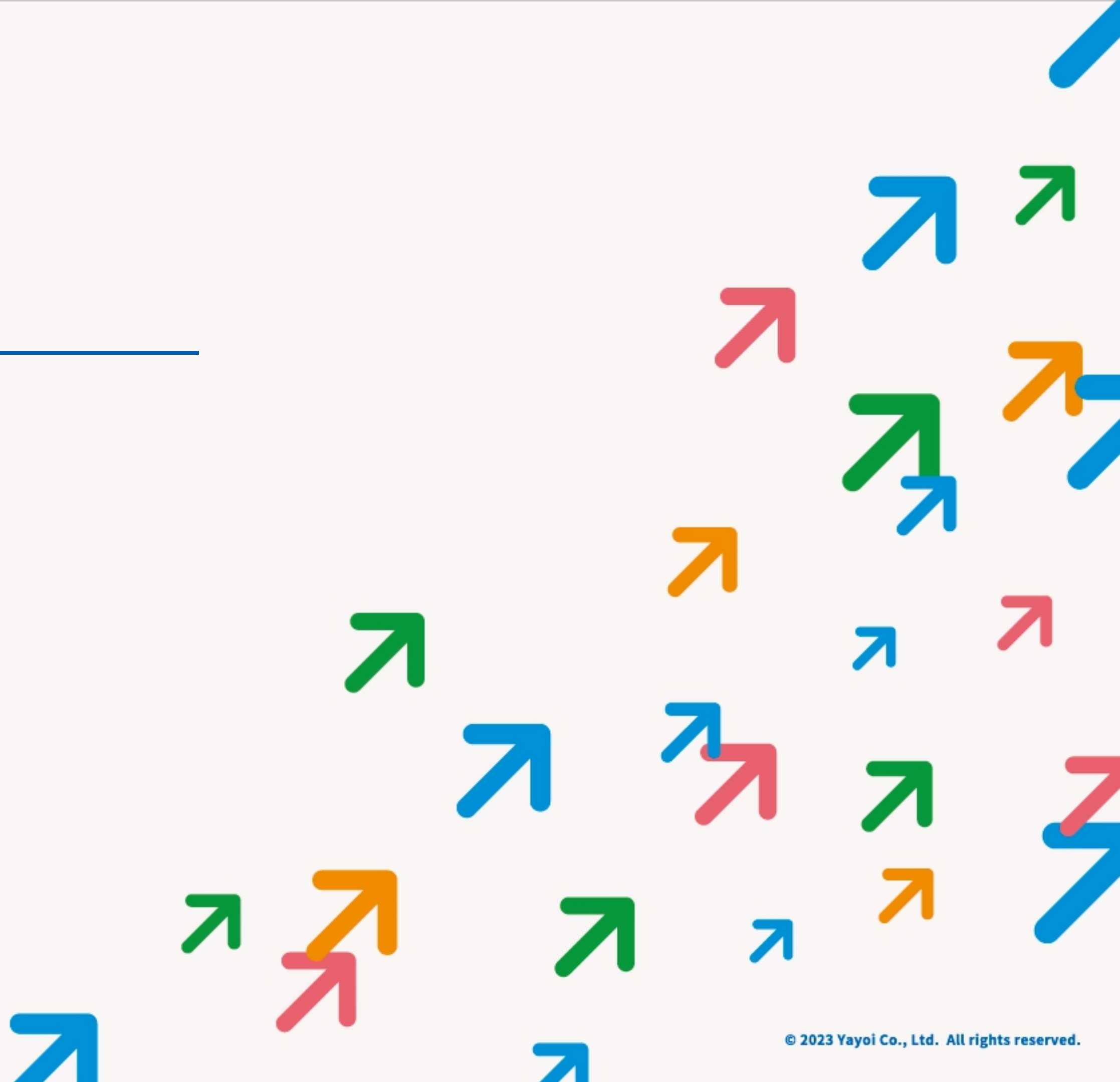
スマート証憑管理の変遷（2023年10月）



スマート証憑管理の変遷（2023年12月現在）



自己紹介



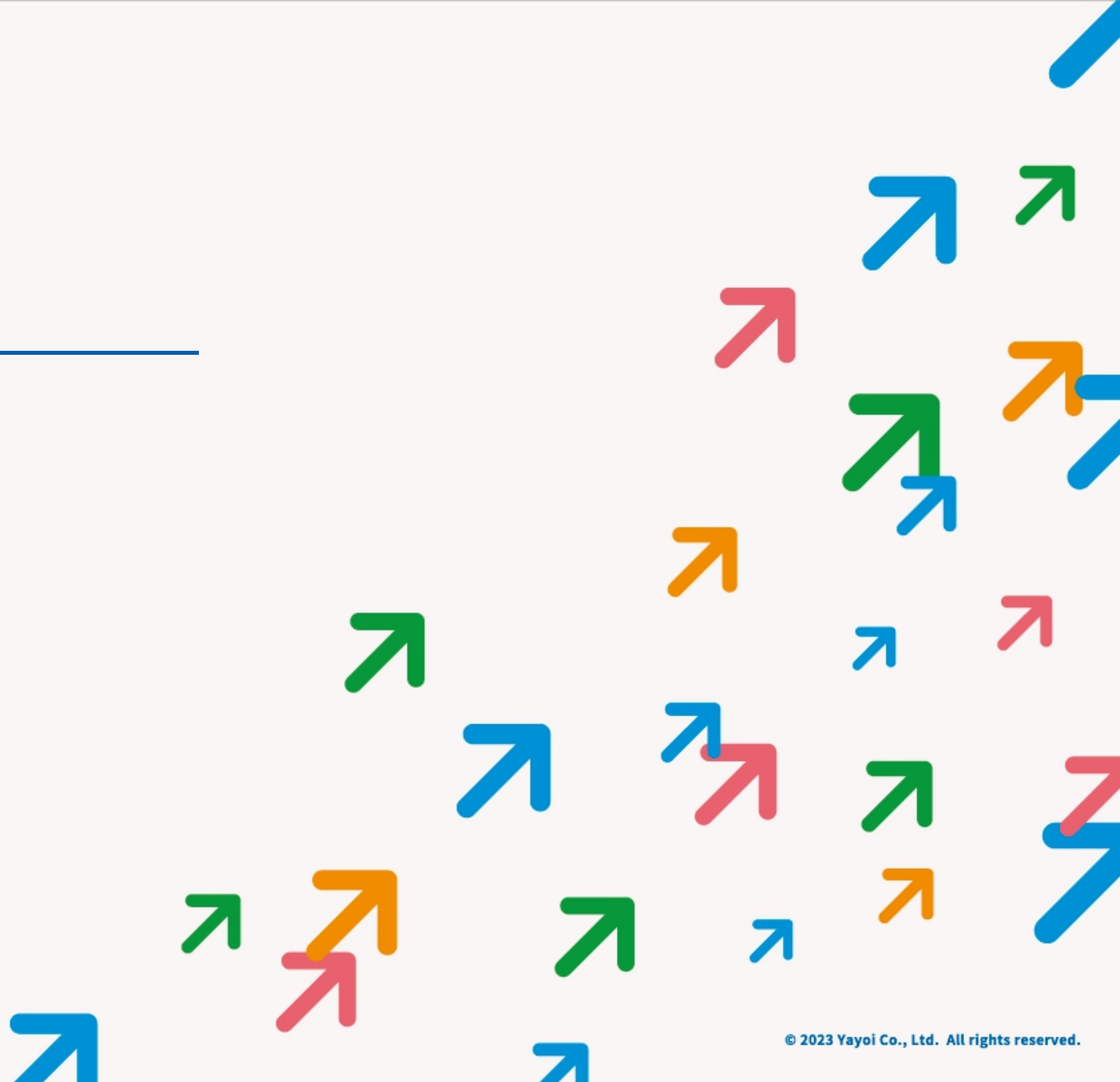
自己紹介

- 名前
 - 家登あずさ
 - かとあず (@kato_az)
- 所属
 - 弥生株式会社 開発本部
- 担当サービス
 - スマート証憑管理

- ロール
 - QAエンジニア
 - スクラムマスター
- 所属チーム
 - ぞうぐみ
- 好きな勘定科目
 - 未払金



チーム・QA



出来事

2021年

1月
開発チーム発足

4月
インセプション
デッキ作成

10月
QAエンジニア参画



2022年

5月
ベータ版リリース

6月
連携1リリース

★改善リリース

8月
連携2リリース

★改善リリース

8月
スプリント1開始

★改善リリース

12月
連携3リリース

3月
テスト実行開始



7月
操作マニュアル作成



10月
仕様検討から参画



2023年

1月
機能強化リリース

★改善リリース

★改善リリース

6月
連携4リリース

★改善リリース

7月
プロダクトバックロ
グアイテム運用開始

★改善リリース

10月
スクラム5つのイベ
ント実施開始

10月
連携5リリース

★改善リリース

11月
スクラムチーム分割

★改善リリース

1月~2月
エンジニア用テスト
アカウント作成配付

6月
CSM取得

11月
CSPO取得



2021年

2021年

1月
開発チーム発足

4月
インセプション
デッキ作成

10月
QAエンジニア参画



2022年

5月
ベータ版リリース

6月
連携1リリース
★改善リリース

8月
連携2リリース
★改善リリース

8月
スプリント1開始

★改善リリース

12月
連携3リリース

3月
テスト実行開始

7月
操作マニュアル作成

10月
仕様検討から参画



2023年

1月
機能強化リリース
★改善リリース

★改善リリース

6月
連携4リリース
★改善リリース

★改善リリース

7月
プロダクトバックロ
グアイテム運用開始

★改善リリース

10月
連携5リリース
★改善リリース

★改善リリース

★改善リリース

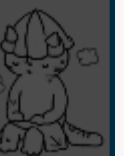
1月~2月
エンジニア用テスト
アカウント作成配付

6月
CSM取得

11月
CSPO取得

10月
スクラム5つのイベ
ント実施開始

11月
スクラムチーム分割



2021年10月：兼務でチームに参画

- アジャイル開発で進めているということなので、「アジャイルソフトウェア開発宣言」を見た

プロセスやツールよりも**個人と対話**を、
包括的なドキュメントよりも**動くソフトウェア**を、
契約交渉よりも**顧客との協調**を、
計画に従うことよりも**変化への対応**を、
価値とする。すなわち、左記のことがらに価値があることを認めながらも、私たちは右記のことがらにより価値をおく。



出典：<https://agilemanifesto.org/iso/ja/manifesto.html>

2021年10月：兼務でチームに参画

- アジャイル開発で進めているということなので、「アジャイルソフトウェア開発宣言」を見た

「アジャイルでやること」
以外、不明確

プロセスやツールよりも**個人と対話**を、

誰が何をしているのか
わからない

ドキュメントがない
または、見つからない

包括的なドキュメントよりも**動くソフトウェア**を、

動くものは、
まだ存在しない

???

契約交渉よりも**顧客との協調**を、

顧客は誰だろう？

初回リリース予定日
以外、不明確

計画に従うことよりも**変化への対応**を、

行き当たりばったり
見えなくもない

価値とする。すなわち、左記のことがらに価値があることを
認めながらも、私たちは右記のことがらにより価値をおく。

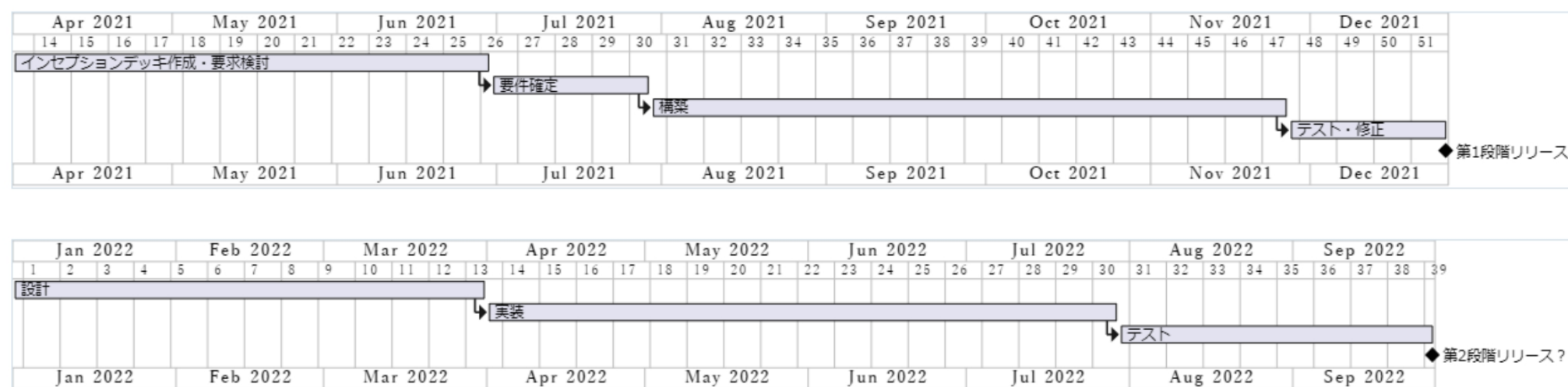


出典：<https://agilemanifesto.org/iso/ja/manifesto.html>

2021年11月：インセプションデッキ見つかる

- 4月に作成されていた、インセプションデッキを確認した

期間を明確にする



あくまで推測であって、確約するものではありません。



9か月サイクルの
ウォーターフォール開発
っぽい？

ぜんぜんわからない.....



2022年

2021年

1月
開発チーム発足

4月
インセプション
デッキ作成

10月
QAエンジニア参画

2022年

5月
ベータ版リリース

6月
連携1リリース

★改善リリース

8月
連携2リリース

★改善リリース 8月
スプリント1開始

★改善リリース

12月
連携3リリース

3月
テスト実行開始

7月
操作マニュアル作成

10月
仕様検討から参画

2023年

1月
機能強化リリース

★改善リリース

★改善リリース

6月
連携4リリース

★改善リリース

★改善リリース

10月
連携5リリース

★改善リリース

★改善リリース

1月~2月
エンジニア用テスト
アカウント作成配付

6月
CSM取得

7月
プロダクトバックロ
グアイテム運用開始

10月
スクラム5つのイベ
ント実施開始

11月
CSPO取得

11月
スクラムチーム分割

2022年1月：開発チームメンバーの声

QAエンジニアが
何しているかわからない

うちのチームには
QAエンジニアいらなさそう

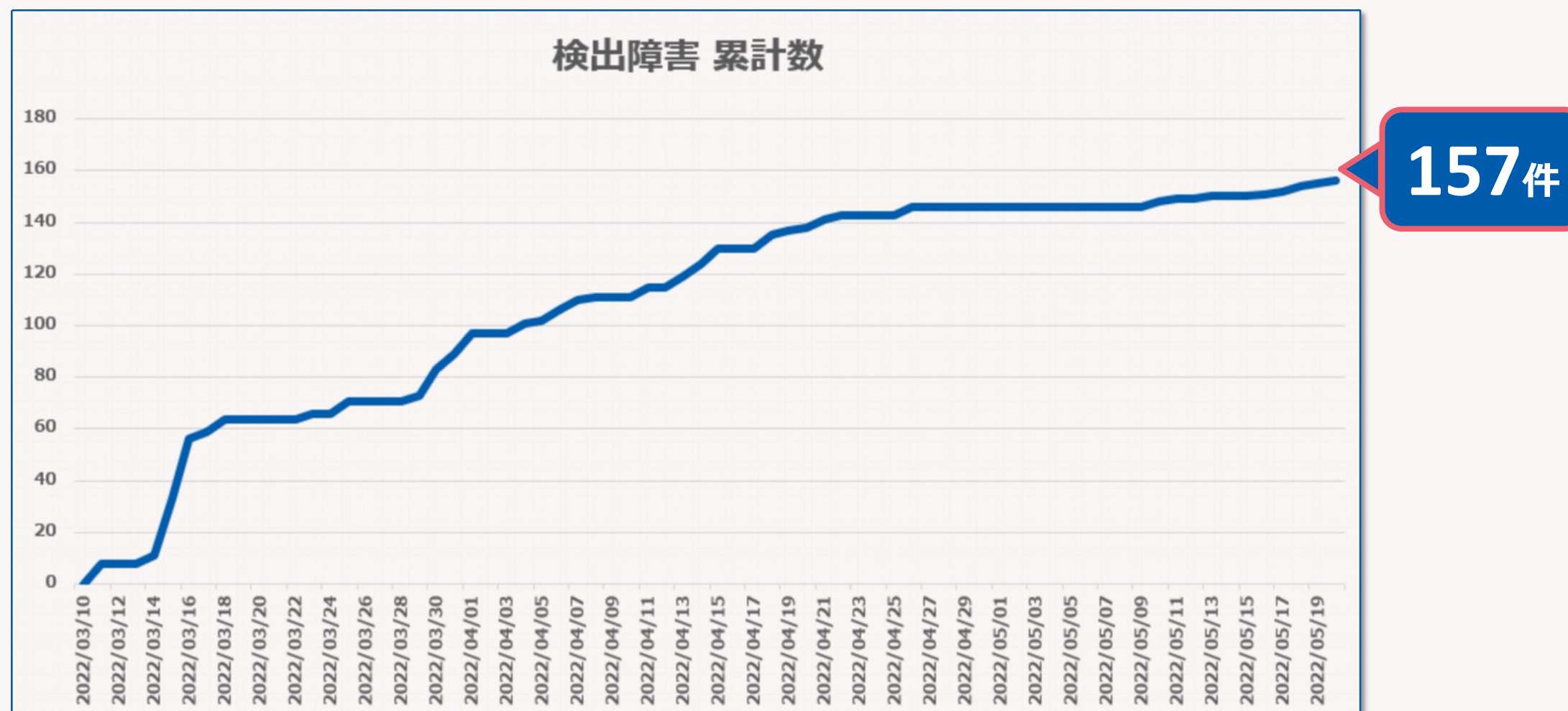
ローカル環境で、
テストやってますよ

どうしよう.....
成果を出さないと



2022年3月～5月

- テスト環境に「動くソフトウェア」がデプロイされたのでテストをした



障害起票がとまらない



修正確認が追いつかない

2022年5月：開発チームメンバーの声

- ベータ版として初回リリースができた

思ったより障害があった

リリース前に障害検出して
修正できてよかった

テストやってもらってよかった

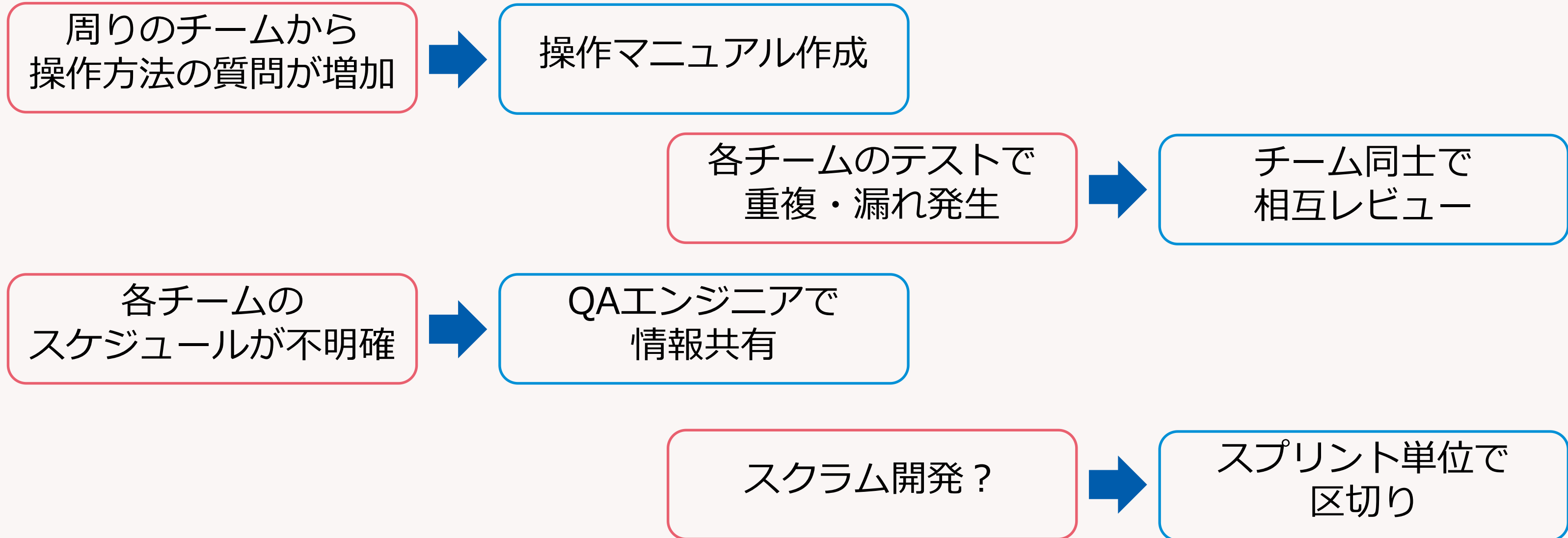
もっと前の段階で
どうにかしたい



テスト以外できなかった

2022年6月：改善活動開始

- チームで、できることから改善を始めた



一歩ずつ



2022年10月：他のチームからの声

証憑管理チーム、
何をしているかわからない

どうして計画できていないの？

仕事なんだから
もっときっちりやってよ

道のりが遠い.....



2023年

2021年

1月
開発チーム発足

4月
インセプション
デッキ作成

10月
QAエンジニア参画

2022年

5月
ベータ版リリース

6月
連携1リリース

★改善リリース

8月
連携2リリース

★改善リリース

8月
スプリント1開始

★改善リリース

12月
連携3リリース

3月
テスト実行開始

7月
操作マニュアル作成

10月
仕様検討から参画

2023年

1月
機能強化リリース

★改善リリース

★改善リリース

6月
連携4リリース

★改善リリース

★改善リリース

10月
連携5リリース

★改善リリース

★改善リリース

1月~2月
エンジニア用テスト
アカウント作成配付

6月
CSM取得

7月
プロダクトバックロ
グアイテム運用開始

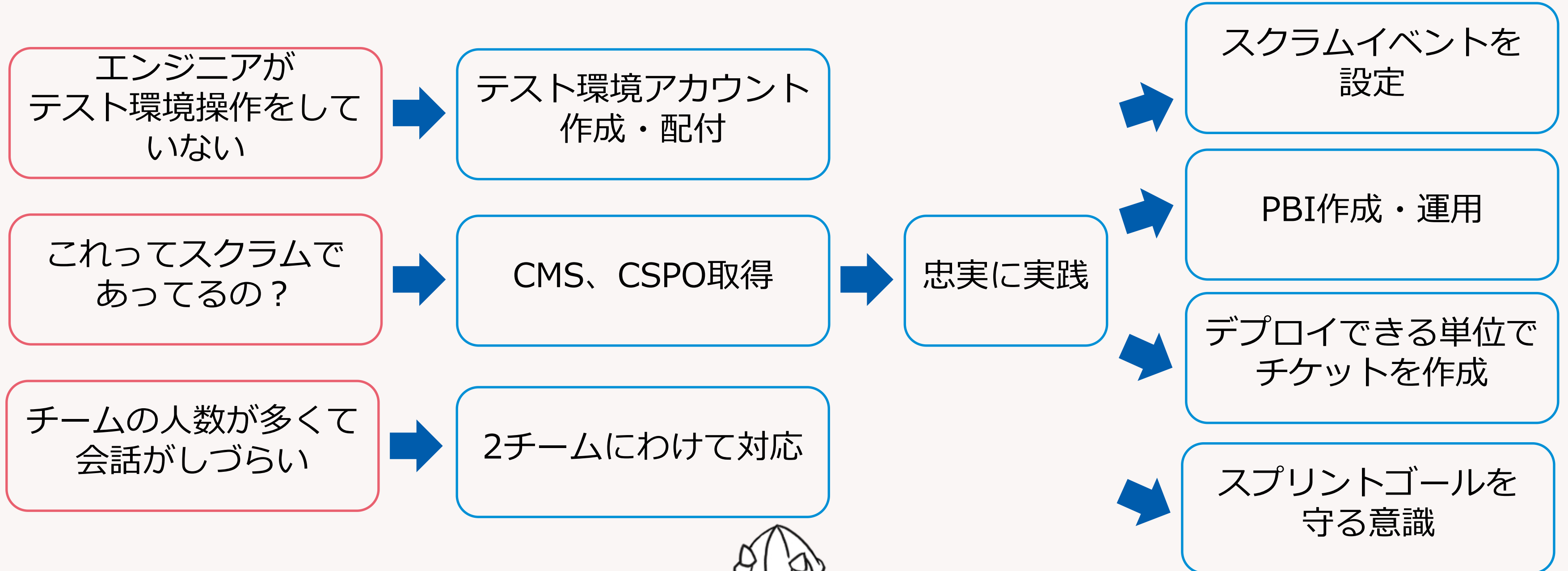
10月
スクラム5つのイベ
ント実施開始

11月
CSPO取得

11月
スクラムチーム分割

2023年：改善活動加速

- さらにスピードアップのために、取り組みを進めた

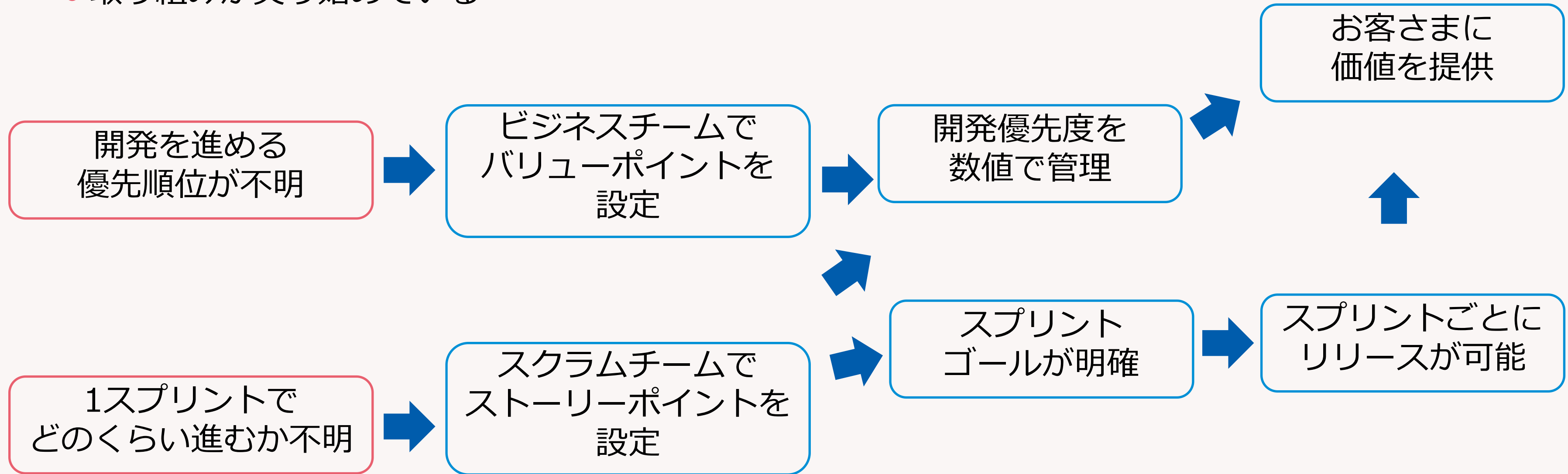


整ってきた



2023年12月：現状

- 取り組みが実り始めている



チームが動きやすくなっている



以前の他のチームからの声

証憑管理チーム
何をしているかわからない

どうして計画できていないの？

仕事なんだから
もっときっちりやってよ

2023年12月：チーム内外からの声

証憑管理チーム
継続的にリリースしているね

次のリリースで搭載する機能が
事前に把握できる

チームに、安心して任せられる

できるようになってきた



チームの状況

- 「アジャイルソフトウェア開発宣言」から現状を確認してみた

プロセスやツールが
整ってきた

プロセスやツールよりも**個人と対話を**、

声をかけて
集まることが多い

必要な情報がある

包括的なドキュメントよりも**動くソフトウェアを**、

スプリントごとに
デプロイして最新状態に
なっている

必要な対応が
できている

契約交渉よりも**顧客との協調を**、

お客様の声を直接聞く
手段ができている

ロードマップが
作られている

計画に従うことよりも**変化への対応を**、

顧客ニーズや
開発状況に合わせて
調整して承認を得ている

価値とする。すなわち、左記のことがらに価値があることを
認めながらも、私たちは右記のことがらにより価値をおく。



出典 : <https://agilemanifesto.org/iso/ja/manifesto.html>

まとめ

- スマート証憑管理チームは、加速している
 - 数か月前の印象は、すでに古い
 - チームの”今”を見る必要がある
- 対応した具体的内容の「横展開」「標準化」で、他チームがうまくいくわけではない
 - チームをよく見て、状況に合った対応が必要
 - 「チームによる」は、本当だった

2024年スマート証憑管理QAエンジニアのMVV

- Mission
 - スマート証憑管理の開発・運用にとって「かゆくなるところ」を見つけて改善する
- Vision
 - チームが活動できる範囲を拡張する
 - お客様の声を受け取り、継続的に改善する
- Value
 - すべてのメンバーが挑戦でき、活躍できるチームにする
 - お客様が本業に集中できるよう、バックオフィスの価値提供をし続ける

会社メッセージ

「挑戦」「スピード!!スピード!!スピード!!」「生産性爆上げ」
を体現するチームにする



あなたの事業コンシェルジュへ。

弥生 